

国際ロータリー第2770地区
第11グループ



川口 RC
Weekly Report

No. 02

● 定例会
第2903回

2019年7月18日配布

● 事務局
〒332-0012 川口市本町 1-18-5 NTT ビル 1F
TEL 048-222-0124 FAX 048-222-0118
http://www.kawaguchi-rc.com
E-mail krc2770@plum.plala.or.jp



2019-20年度
会長：渡部 行光
幹事：平田 修一

Topics & Information

● ようこそ

川口西RCより、川島健会長と岩瀬恵幹事がお越し下さいました。



● Make-Up する会

7月5日に川口モーニングRCへ、Make-Upする会で訪問しました。



● アート & グルメ 絶品アユ料理！

7月10日18:00より寄居の京亭にて行われました。



次回予定 7月27日 打ち水大作戦
会場/キューボ・ラ広場
開始/16:00

次々回予定 8月1日 定例会
会場/そごう川口店ダリアルーム
点鐘/12:30

同好会 紹介
①アート&グルメ②R語る会③麻雀④茶道

あいさつ

渡部 行光



新しい年度が始まり、今週はクラブフォーラムとなります。今年はどうな年度になるか。ロータリーでは、毎年度それぞれのレベルでその年のテーマがあります。昨年のRIは「BE THE INSPIRATION」「インスピレーションになろう」ということで、すこし具体的なイメージがわかりませんでした。がセンセーショナルな雰囲気があり、その都度、ガバナーもそのメッセージを叫んでいました。その前は「ロータリー：変化をもたらす」「ROTARY: MAKING A DIFFERENCE」です。ロータリーで変化を作り出すということでしょうか。

さて、今年のRIのテーマは「ロータリーが世界をつなぐ」(Rotary connects the World)です。実にわかりやすいテーマだと思いました。ロータリーの活動が我々の身の回りの人々や出来事をつないで、よりお互いが理解しより多くの人の幸せを実現してゆく、ということでしょうか。我々はいくつものところにアンテナを伸ばし、このロータリーの発想、活動を広めてゆく。そのようなことを実現できればいいのかなと思います。ロータリーの内をつなぎ、内と外をつなぎ、そして外と外をつなぐ。まさにつなぐというのはわかりやすく、何でもターゲットになります。そして地区の運営方針は「ポリオ撲滅活動からクラブ活性化へ」ということです。ポリオ撲滅(根絶)というのはロータリーが長年取り組んできたテーマであり、あとわずかな国に残る、大変成果を達成した活動でした。そのあと活動を踏まえて、できればそのカウントダウンまで進めたら素晴らしいことだと思います。

そして、わがクラブのテーマは「100人の輪、世界をつなぐ」です。60周年を超え、100名を達成して、その100人の力をもって内に外につながりを広め、ロータリーの精神、ロータリーの活動を、広く深く長く浸透させてゆく。そのような願いであります。

今日のクラブフォーラムは管理運営部門が中心です。そのクラブの組織的基盤が管理運営部門です。むかしはクラブ奉仕部門といいました。クラブに対する奉仕ということでしょうか。まさにクラブの組織的運営をつかさどる部門です。会社でいえば、総務とか経理とか人事とか、いわゆる製造・営業以外の部門です。最近はいわゆる経営学が進歩して、この管理部門が肥大化してきましたが、ITが進んで組織がかなり流動化して、今までの部門では対応できなくなり製造・営業・管理が融合して企業が動くような面があります。ロータリーもこの管理運営部門と奉仕部門が融合して同じ志を共有しながら活動できるといいと思います。委員長の皆様よろしくお祈りします。

さて、先週の土曜日、米山記念奨学部門の地区セミナーに行っていました。内容は奨学生の紹介、全部で34名ですがほぼ全員出席していました。場所は北越谷、ガバナーの地元地域ですが、文教大学という場所です。その学校に留学している米山奨学生もたくさんいます。そして公益財団法人米山記念奨学会の事務局長のお話、それとパネルディスカッションで、いくつかの大学の指導教授が参加しました。事務局長のお話は米山奨学生のOB、校友会の活動状況、印象的な話は中国の米山奨学生で中国国内が反日活動が盛んな頃、いかに日本のために支援の姿勢をとっていたかを話しました。

また、パネルディスカッションでは大学過程では例会に出る時間の確保が難しいが、例会に出て学校生活とは別にロータリーの人たちと交流できて非常に有意義であるということでした。世話クラブ、カウンセラーとの交流が本当に幅広い留学体験となったということです。この米山記念奨学生の活動にしろ、青少年交換留学にしろ、それぞれの留学体験がいかにその人の人間形成を支援しているか、そして国を超えて人々の理解を進めているかを感じました。